

## 平成31年度 第1回政策推進会議報告

日時 4月19日 9時30分～10時56分

場所 4-1会議室

出席者 17人

### 1 はたらきガイド（尼崎市人材育成基本方針）の浸透と活用について

総務局長から資料に基づき報告。（以下、質疑等）

- ・（市長）昨年度、全幹部で議論を重ね大幅な改定を行い、コンピテンシーという新しいツールを導入したガイドとなった。コンピテンシーを用いた人事評価では、最初に何を意識するかということが非常に大事なポイントとなる。気づきがないと意識を変えることはできないし、意識が変わらないのに行動を変えるということはもっと難しいので、気づきから意識改革、そして行動変容という風にステップを踏んでいけるように皆で頑張っていこう。最初に自分の弱みや強みを知って、そこからどういう変容を目指すのかということ意識した取組を年間通じて行い、そしてそれを終わりの頃に振り返るということになる。そういう意味では、この4月からの皆さんの面談が非常に大事になってくるので、是非ともよろしく願いたい。また、誰も全部をパーフェクトには出来ないで、やはり自分の長所短所を自覚しながら、苦手なところは少しフォローをお願いするような工夫もしながらやっていければいいのかなというふうに思う。最後に、これはまだ始まったばかりの取組なので、進めていった時に使いにくい部分やもう少し工夫が必要な部分が出てくると思うが、これが完成形ではなくバージョンアップをしていきたいと思うので、そういったご意見があればぜひ頂きたいということも少し頭において取り組んでいただきたい。

### 2 尼崎市新ごみ処理施設整備基本構想の策定報告及び尼崎市新ごみ処理施設整備基本計画策定に係る「基本情報」及び「政策形成プロセス計画書」の公表について

経済環境局長から資料に基づき報告。（以下、質疑等）

- ・（森山副市長）業務執行体制の会議でゴミの収集についてはアウトソーシングを進めるという報告が出ているが、それとここに記載のある車庫や庁舎の関係に多少の不整合を感じる。この計画は現状の車庫数や庁舎のボリュームを前提としているか。  
→そうではない。
- ・（森山副市長）この資料を見た時に、アウトソーシング後のものだと読み取れるのか。  
→これだけでは確かに見えにくいかもしれないが、我々としては当然ながらそういうことを考えて作成している。
- ・（市長）例えば施設処理のところ、し尿処理施設は1日17キロリットルと書いてあるが、し尿処理は下水との関係もあるなか、わざわざ新しく施設を作るのか等の疑問もある。  
→ここで言うし尿処理施設は最終処理ではなく、あくまでも中間処理の施設だが、それについては公営企業局と調整させていただいているところである。
- ・（市長）そういう調整中のところがこの紙からはあまり読み取れないので、し尿処理施設が新

しく出来るのかなというふうにも見える。これからまだいろいろなことを取り入れながらシャープになっていくということだとは思いますが。

- ・(森山副市長) 今後はこの基本構想を元にしながらいりより効率的で効果的な手法にしていくんだということ、きちんと説明の中で書かないといけないのではないかと思います。
- ・(市長) 資料下部の今後の取組予定に、基本構想を元にした計画の策定とあるが、この基本構想の本編には先ほどのアウトソーシングや下水との調整については記載しているか。  
→そういう細かいところまではまだ決まっていなくて書いていない。ただ、施設規模のところにもあるように、今後、一般廃棄物処理基本計画の改定等に伴い、必要な規模の見直しを行うとしているので、我々としてはそこでもって説明をしたいと考えている。
- ・(市長) アウトソーシングもここに入ってくるのか。  
→もちろんそうである。アウトソーシングの関係で当然減車もする。
- ・(市長) 今後の取組予定のところそういうニュアンスをもっと強く出し、必要な要素を取り込みながら計画に落とし込むというような文言にすればいいのかなとも思ったがどうだろう。
- ・(森山副市長) 基本構想はごみ処理施設全体の話だが、実際にやっていくのは焼却工場の規模の話になるのが少し難しいなと思う。  
→規模の話と処理方針の話と他にもいろいろあるが、どうしていかないといけないかを考えていくうえで、今は2つの工場に分かれているがそれはサイズ的に入るのかとか、そういう検討はこの基本構想の中で行った。先ほどの車の台数とか人の話は、我々としても今年9月末までに平成33年度向けの組合提案をしないといけないので、ある程度ことはきちんと固めていかないといけない。そのためにも平成37年度までの処理体制を検討していく必要がある。現状のものを踏襲するのではなく、きちんとそういうダウンサイジングも図りながら施設整備を行っていくということは念頭に置いてやっている。
- ・(市長) 未確定なことが多いので、そういういろいろな論点はまだこれから詰められていくということを共通認識とする。また、事業費をいかに縮めていくかということも非常に大きな論点になっているということも共通認識で、国庫補助を貰ったとしてもこれだけ必要なのかというほど大規模な投資となる見込みである。やらないわけにはいかない事業であるが、やはり体力以上のことはできないし、ゴミのためだけに他の全ての事業を止めることもできないので、実はかなり全庁的な調整が必要なかなと感じている。無関係な人がいないビッグプロジェクトになることは間違いないと思うので、またその辺もしっかり詰めていきたいと思う。もっと言えば、ゴミ処理をしない自治体はないので、やはり国の補助のあり方とかでもう少し改善してもらえたらなというところはどんどん要望して行って、苦しんでいる自治体がみんなベターになるようにやっていきたいと思う。
- ・この施設は臨海部にあるが、去年の台風の高潮高波を受けて、兵庫県が浸水想定深の見直しをしようとしている。スケジュールを見ると、今年度から第3工場の基本設計、来年度から第1工場の基本設計に入るが、浸水想定深が今よりも深くなるので、設備の設置位置等を検討されるのであれば留意していただきたい。
- ・政策形成プロセス計画書の市民意見の聴取のところに庁内検討会の記載があるが、どういうメンバー、頻度で動いていくのか教えてほしい。ここで十分に規模や方式等をよく議論しないと、一人歩きしてしまうのではないかとという危惧がある。  
→先ほど市長から話があったように、全庁に関係があるし、特に財政面ではかなりのご迷惑を

かけるのかなと思っているので、その辺りの情報共有のためにもそういった会議体あるいは政策推進会議や政策調整部会などいろんなところでできるだけ丁寧に議論をさせていただきたいと思っている。

- ・(市長) やはり財政部門とは熟度の低い段階から二人三脚で一緒にやっていると、後から宿題を返されて困るのは現場だと思う。また、今のクリーンセンターを建てる際に補助金を多くもらうために灰溶融炉を作ったものの、結果として全然活かしきれなかったというような教訓も踏まえてやっているといけないと思う。
- ・減量計画をさらに進めるような変更は考えているのか。変更があるとしたら、今回の基本構想の施設規模も変更の余地があると理解しているのか。

→まだ最終確定していないが、実は平成 30 年度は処分量が若干上がるかもしれない。そのような中で、今後どのような減量策を展開できるのかというのはこれから考えていかなければならないが、まだ余地があるのは紙や食品ロスのところかなと思っている。そういうことも含めて基本計画を変えていきたいので、それによって施設規模は当然変わってくると考えている。

- ・(市長) 今は人口が減っても世帯数は増えているのでなかなか効率的になりきれない部分もあるが、定住・転入促進を一生懸命やってもいずれはどこかで世帯数も減っていくので、やはり今のゴミの量だけで考えるのもどうかなというふうに思う。

→当然ながら施設が稼働する時の人口から処理量を推計するので、それに減量施策も含めてどれくらい焼却の規模を落とせるかということになる。現時点では第 1 工場と第 2 工場ですべて 1 日 640 トンの処理量があるところ、今回提示している構想においては 1 日 495 トンということでかなりダウンサイジングしているので、ここから更にどれくらい減らせるか。

- ・(市長) あとは、「広域化の検討」に書いており今回は単独設備投資にはなるが、災害時の広域連携のように、処分量のピークがずれるようなときはお互い融通しあうとかいった広域での連携は非常に大事になってくる。

→昨年そういった協定をまいて、災害時等には連携できるようにしている。また、今後 5 年間は 480 トンでやっているといけないという故障が許されない状況なので、広域での連携は重要だと考えている。

- ・(市長) 基本構想ができたとはいえ、まだまだこれから詰めることがたくさんあるし、更にシャープな計画にしていけないといけないということなので、全庁一丸となって頑張っていきたいと思う。

### 3 その他

○ 総合政策局長から、尼崎市提案型事業委託制度の募集について説明。(以下、質疑等)

- ・(市長) 少し難しいのは以前に提案があったのに断った事業だが、状況次第で判断が変わることもあるので掲載したほうがいいだろう。ただ、業務執行体制の見直しがこれだけ大掛かりに全庁横串で入っているのだから、提案型委託については、提案があれば検討しますという窓口は設けるにせよ、そんなに件数をかけなくてもいいのかなとは思っている。本当の協働という意味では委託が必ずしも使いやすいたとは限らないので、そういう意味では数にはこだわらず、来たものについては前向きに検討し、私たちもそれをチャンスにして業務の見直

しに繋がるようにしていきたい。

- 総合政策局長から、平成 31 年度クリーン運動について説明。
- 総合政策局長から、サマセミ 2019 のセンセイ募集について説明。
- 資産統括局長から、ふるさと納税に係る見直しについて説明。
- 都市整備局長から、都市計画マスタープラン中間総括について説明。
- 経済環境局長から、瓦の音楽コンサートについて説明。

以 上